

かみす

Pick up

- ▶感染症に伴う救急活動
- ▶成婚祝記念品を贈呈！

特集

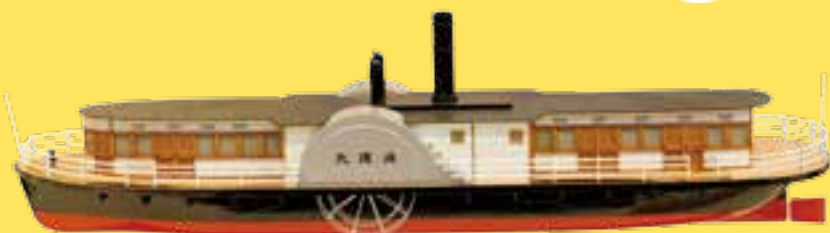
まちの魅力再発見

歴史民俗 資料館

バックヤード
ツアー

「収蔵庫には何があるの?」「学芸員ってどんなことをしているの?」といった素朴な疑問から、今年の夏の企画展の見どころまで、神栖市歴史民俗資料館の魅力を紹介します。

写真は右上から時計回りで、ささら舞の獅子頭、慶事に使われる島台しまだいの模型、民俗資料いっぱいの収蔵庫、歴史民俗資料館、万祝人形まいわい、特別収蔵庫の資料、柏屋旅館かしんがいの三蓋盆、電気あなか、通運丸模型



AR

広報かみすが
動き出す



[COCOAR2]



アプリをダウンロードし
表紙にスマートフォンを
かざしてください。
詳細は12ページ

特集

歴史民俗資料館

バックヤード
ツアー



歴史民俗資料館というと、「歴史好きが行くところ」「勉強しに行くところ」と思っただけで遠のいていませんか？ そうだとしたら、もったいない。今回は、お宝が眠る収蔵庫や企画展の裏側など、神栖市歴史民俗資料館をすみずみまで探検します。

入館前からワクワクが始まる！

歴史民俗資料館の楽しみは、建物前の池から始まります。2つ並んだ鳥居から水がコポコポと湧き出しているのは、パワースポットとして知られる息栖神社の忍潮井をモチーフにしたもの。次に目を上げて、屋根の形に注目。実はこの建物、市内唯一の国指定重要文化財である山本家住宅の曲屋をイメージして設計されたのだそう。館内に入ればもっとたくさん面白い発見ができそうで、胸がワクワクしてきます。



息栖神社の忍潮井の男瓶と女瓶がモチーフ

は鹿島開発によって自然や社会環境が大きく変化したことから、先人の文化遺産や民俗資料、開発前の姿などを後世に伝えることを目的としています。メインテーマは『水と人々のくらし』。1階には原始・古代から近現代までの歴史をたどる常設展示室、2階には昭和30年ごろまで使われていた農業、漁業、生活の道具を集めた民俗展示室があります。

バックヤードツアーに出発

今回は普通に見学するのではなく、ちょっと変わった角度からアプローチすることに。



谷田学芸員

学芸員の谷田法子さんの案内で、普段は見られないバックヤードを探検し、特別公開します。

明治18年ごろの神栖の模型。ここにはあるエピソードが...



収蔵庫は民俗資料でいっぱい。武士の甲冑、木製の氷冷蔵庫、柏屋旅館のふとん地、なぜかバス停が…。



まず、1階の受付から奥に進むと、段ボールや緩衝材が積まれた倉庫に出ます。まるで引越作業の途中のよう。

「ここは荷解室^{にとぎ}といって、トラックを横付けして資料を搬入・搬出する場所です。床に毛布を広げて、大切な資料を梱包したり荷解きしたりするんですよ。資料の梱包に使う「綿座布団」は、綿を薄い和紙で包んだもので、自分たちで手作りしています」と谷田さん。決して資料に傷を付けないよう、過保護なくらいやさしく扱っていることが伝わってきます。

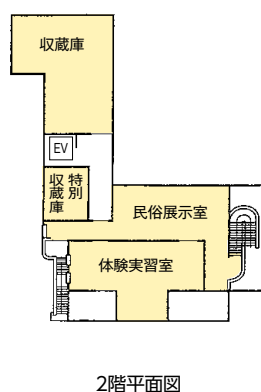
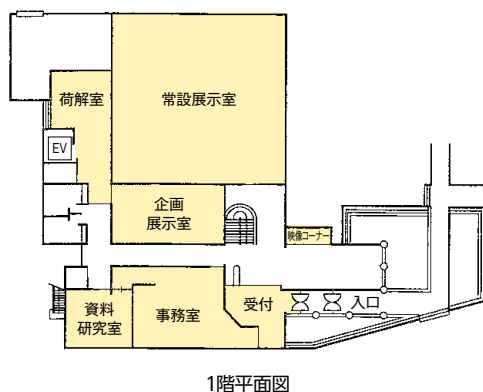
次の部屋は資料研究室。机の上に地域の古文書が広げられ、専門の職員が解読を進めています。また棚の前には展示用パネルが何十枚も立て掛けられています。一つひとつの資料が展示室でお披露目されるまでには、裏方でたくさんの準備が必要なのだと感じました。

収蔵庫には昔の道具がいっぱい

さあ、2階へ上がり、いよいよ収蔵庫へ。約30坪の広い部屋に、江戸から平成にかけての民俗資料が所狭しと置かれています。どこから見ればいいのか迷ってしまうほど、種々

雑多な収蔵品の数々。手前には大きな農具や漁具、むしろ編機、背負籠など。部屋の奥にはいくつもの棚が並び、「これって何？」と首をかしげる道具から、懐かしい記憶を呼び覚ます物まで、まるで宝探しをしている気分になります。

「木製の氷冷蔵庫に網戸付きの食器入れ、折りたたみ式のちゃぶ台などは、収蔵品展でも人気です。他にも武士の甲冑^{かっちゅう}から明治時代の婚礼衣装、戦時中の軍隊手帳など、本当に



1階平面図

2階平面図



物々しい雰囲気の特設収蔵庫。山本家文書や松尾芭蕉を描いた掛け軸など、貴重な資料を保管。室内を木で覆い温度と湿度を一定に保つ

たくさんの方がいます」

昔の道具は、市民の皆さんから寄贈・寄託されたものがかなりの数にのぼるそうです。「蔵や家に、昔の道具が眠っていたら、資料館にご連絡いただけるとありがたいですね。地域の民俗資料として大切に保管し、後世に伝えたいと思っています」

金庫室のような特別収蔵庫

2階にはもう一つ、特別収蔵庫があります。金庫のような分厚い二重扉で閉ざされ、物々しい雰囲気。許可をもらい、恐る恐る中に入りました。約8坪の室内は温度・湿度が一定に保たれています。

「ここには写本、古文書、古地図、絵図、掛け軸など、主に紙の資料を保管しています。紙は虫食いやカビが発生しやすいので、一番気を使います」と説明してくれました。膨大な資料を分類し、特殊な中性紙の封筒に入れて保管。貴重な資料が劣化しないよう万全の注意が払われています。

バラエティ豊かなイベント

歴史民俗資料館には、谷田さんを含め3人の学芸員がいます。その役割は、資料の収集・保管・展示・調



毎年さまざまな企画展を開催

査・研究など。時には昆虫採集もするそうです。谷田さんに、最もやりがいを感じる瞬間を聞いてみました。「来館してくださった方が、展示している資料に興味を持ってくれた時です。昨年の企画展は、過去最高の入館者数を記録し、とてもうれしかったことを覚えています。」

夏の企画展は、恐竜展、昆虫展、金魚展、おもちゃ展、妖怪展などバラエティ豊か。子どもたちの興味を引くテーマを意識しているそうです。企画展の他に収蔵品展(むかしの道具展)も実施。こちらは、地元の小学校の総合学習にも活用されているそうです。さらに、季節や旬の話

題をテーマとしたお雛さま展、国体・スポーツ展などのミニ展示、市民コレクション展など、さまざまな展覧会が、一年を通じて行なわれます。体験型のイベントが豊富に用意されているのも特徴です。

今年の夏は水中の生き物に会おう！

今年の夏の企画展は『食うもの vs. 食われるものー水のなかのハンターたち』がテーマ。3年以上前から計画し、準備を進めてきたそうです。「企画展では他館からたくさん資料をお借りします。特に恐竜は人気があるので、早めに依頼をしておかな



画像提供：田中愛望

今年の企画展の主役はフタバスズキリュウ

ければなりません」

メインとなるフタバスズキリュウの資料は国立科学博物館やいわき市石炭・化石館から、他にも栃木県や群馬県の博物館、さらに茨城県自然博物館や大洗水族館などの所蔵品を展示しています。「自分たちで2トントラックを運転して運ぶこともあります。さすがに運転中は気を張り詰めていますね。資料の貸し借りは信用第一。絶対に壊すことは許されません」

こうして資料を揃え、ポスターや展示パネルを作成し、見せ方や配置を工夫し、大型の資料は安全性にも配慮して展示し、ようやく当日を迎えることになります。

今回は、フタバスズキリュウの化石の発掘現場を再現した

大型模型もあり

ます。また、化石のレプリカ

作りなど小学生から楽

しめるイベントや、

著名な博



化石くじらの骨格標本も展示

士による講演会なども開催しています。期間は9月6日まで。水中の生き物たちの世界に浸れば、夏の暑さも吹き飛びそう！

何度でも面白い発見ができる

バックヤードツアーを終え、改めて1階の常設展示室へ。中央に置かれていたのは、明治18年ごろと現在の神栖市の姿を比較できる2台の模型です。ここにも知る人ぞ知るエピソードが。「開館当時は神栖町でしたが、平成17年の合併の際

に、旧波崎町部分の模型を追加したので、よく見ると海の色が違うんですよ」。思わぬところで、地域の歩みを感じることができま

す。じ取ることができま

す。「鹿島開発への途」コー

ナーには、激動の時代を歩んだ神栖市の特徴が色濃く現

れています。ここには立地企業の製品が展示されていますが、

新製品が出るとこまめに入れ替えてくれる企業もあるとのこと。

まさに時代とともに動いていきます。「未来への遺産」コーナーに

は、田畑地区のさら舞で実際に使われる獅子頭と衣装が展示されており、お祭り当日はこのスペースがランとしているのだとか。

「全国に知られるような華々しい遺物はなくても、どれも人々が生きた証であることに間違いありません。遠い昔から、この地域のために頑張っていた方々がいることを感じ取ってもらえたらうれしいですね」という谷田さんの言葉に、思わず大きくうなずきました。

資料が見やすい展示台の色や高さ、並べ方、角度、照明、地震でも倒れない固定の仕方など、さまざまな工夫が凝らされている常設展示室。どんな変化球の質問にも、丁寧に答えてもらえます。皆さんもぜひ、何でも気軽に質問してみませんか。見学が何倍も楽しくな



第45回企画展
『食うもの vs. 食われるものー水のなかのハンターたち』
9月6日(日)まで開催中
国立科学博物館から借り受けたヒドトロサウルスの複製